

特許紹介

第29卷第6号 昭和18年6月

骨組法

(特許第154935号 發明者
北野進吾 竹野内忠一)

簡易な方法により組立取外し共に容易で且堅牢なアーチ状の屋根を構成せんとするもので、**圖-1, 2**に就き説明すれば、構梁(1)(1')を其端部で交叉させて結着してへ状の構體を形成する。構梁(1)(1')の下端に近く他の數本の構梁(2)(3)(4)及(2')(3')(4')を緊定點(A)(B)に於て扇形に締着して兩側方に扇形骨格を形成する。而して之等の骨格を連結材(5)(6)(7)及(5')(6')(7')にて順次に連結する。尙構梁(1)(1')には適宜に縦梁(8)(8')を設けて出入口(D)を設ける。斯くて側壁を形成し側壁の適當數を間隔を置いて並列し、其の周圍に横梁(9)を差渡し狀に緊定してアーチ狀に構成させるのである。

圖-1.

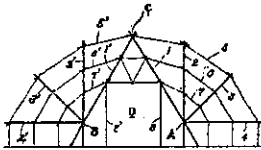
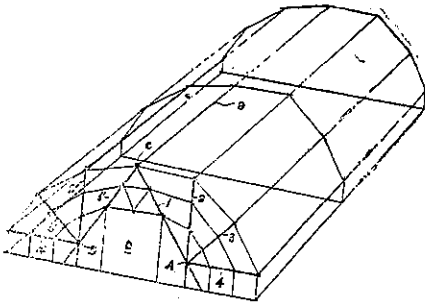


圖-2.



地中に建築物枠を築造する方法

(特許第155100号 發明者
木田栗太郎)

従來の如く潜函を沈下する事なくて、地中に建築物枠を下方へ下方へと築造し、作業を容易ならしめると共に正確に鉛直な地中建築物を築造しようとするものである。

地中に遮壁(1)を降下させ乍ら其の内部を掘つて此處に建築物枠(2)の上部を築造し、次に建築物枠の

中央部(3)を下側の土壤(4)に支承させ置き遮壁(1)を適當に降下させながら、枠(2)の左右兩側部下方に當る部分(6)を楔形に掘下げる(圖-3, 4)。此部に建築物枠(2)の左右兩側下部(7)を繼足し構成し、依つて得

圖-3. 平面圖

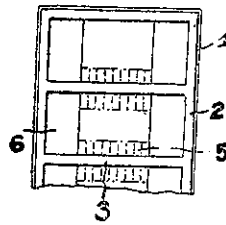


圖-4.

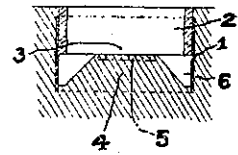


圖-6.

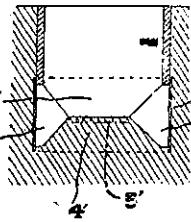


圖-5.

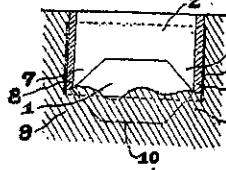
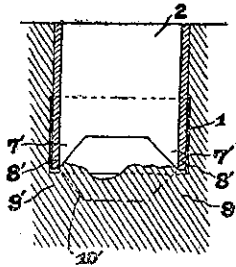


圖-7.



る左右兩壁(8)の下部を下側の土壤(9)に支承させ置き、中央部(10)を掘下げる(圖-5)。此部に建築物枠(2)の中央下部(3')を繼足し構成し、之を下側の土壤(4')に支承させ置き、更に遮壁(1)を適當に降下させ乍ら枠(2)の左右兩側部下方に當る部分(6')を楔形に掘下げる(圖-6)。此部に建築物枠(2)の左右兩側下部(7')を繼足し構成し、以下前記と同様に左右兩壁(8')の下部を下側の土壤(9')に支承させ置き中央部(10')を掘下げ、此部に建築物枠(2)の中央下部を繼足し構成する(圖-7)。斯の如き工法を繰返し、以て地中に深大な建築物枠を築造するのである。

特殊セメント製造法

(特許第 155111 號 發明者 高柳啓吉)
(特許権者 阪倉骨吉)

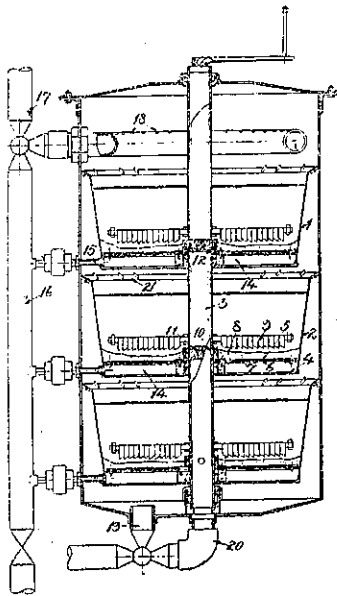
香川県木田郡庵治村及牟禮村地方に産出する可溶性珪酸を多量に含有し、且吸着性に富む非結晶質珪酸白土又は之と均等な成分及性能を具へた白土に、適量の苛性曹達或は苛性加里の水溶液を混和して加熱処理を行ひ、生成した粘狀液を先づ前記珪酸白土の若干量中に混和吸収させて乾燥した後、更に炭酸カルシウムを配合して粉碎する特殊セメント製造法である。之に依り強き接着力を具へ乾燥硬化迅速で、保温耐火耐酸等の性能に富むセメントを経済的に製造せんとするものである。

濾 水 機

(特許第 155155 號 發明者 佐藤貞明)
(特許権者 有限会社東京濾過機工業所)

各濾過盤に加はるヘッドを全部始終一定にし且濾過膜の構成及垢泥の洗滌除去を容易ならしめ、而も全體として容量大にして輕量ならしめんとするものである。圖-8 に示す如き構造より成り、濾過操作に際しては、原水を原水供給管(17)から原水噴出孔(18)を経て、第一段容器(1)内全周縁部に靜かに供給し、濾過盤(5)に

圖-8.



濾別せられた清淨水を集水室(14)を経て淨水取出管より(15)(16)に取出し、又第一段容器の口縁部から溢流した原水は之を容器の外側斜面に沿ひ流下させ、順次

第二段第三段の容器内に周縁部から靜かに供給し、夫々濾過盤により濾別させて清淨水を得る。

濾過盤の洗滌操作に際しては、水垢流出管(20)を開き、管軸(3)と共に攪拌翼(9)を回轉させつゝ淨水取出管(15)から淨水を流入させ、之を濾過盤(5)の下面から上面に逆流させれば、濾過盤面上に堆積した垢泥を濾材と共に浮上させ垢のみを垢水流出口(10)から流出するやうに洗滌攪拌翼を靜かに逆回轉させる事により濾材の沈澱を急速ならしめるのである。

火力發電所に於ける復水器用

取入口の防砂装置

(特許第 155253 號 發明者)
(特許権者 鈴木芳虎)

火力發電所に於ける蒸氣原動機用復水器に使用する水の取入口に堆積する砂を、復水器排水の水勢を利用して除去しようとするものである。

圖-9. 平面圖

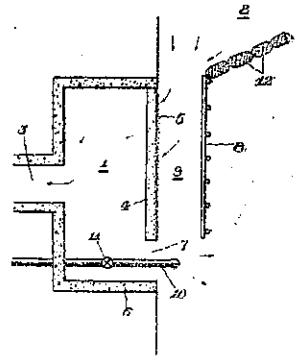
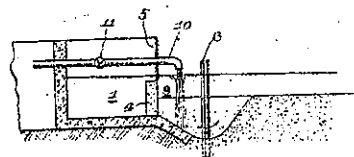


圖-10. 縦斷側面圖



水器の排水管(10)を開き、之より排水を放出させ其の水流により水路下流の河底を常に掘下げるやうにしたものである(圖-9,10)。

斯くて水路(9)の底には流砂の堆積する事なく、從つて沈砂池前壁(4)を越えて流砂が池内に流入する虞もない。

アスファルト舗設機

(特許第 155303 號 發明者)
(特許権者 高野忠造)

勞力を節減し所望の面積に於て、不陸なくアスファル

トを舗設し得るやう設計考案した舗設機である(圖-11, 12)。

搬送し得るやうにした機體上に、其搬送方向と直角なる方向に軌道を設ける。軌道上に均し装置(11)を附設

圖-11. 側面圖

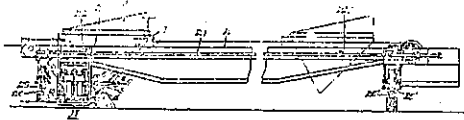
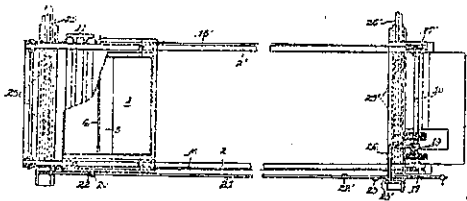


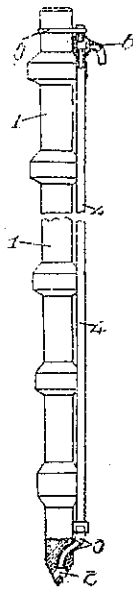
圖-12. 平面圖



したアスファルト收容槽(1)を載架し、之を軌道の上に於て往復動させると共に、其往復動の長さを任意に加減し、且其終端に於て收容槽(1)を自動的に停止し得るやうにしたのである。

尙此の舗設機はコンクリート舗設の場合にも應用し得る事は勿論である。

圖-13.



(附) 登録實用新案

基礎杭

(登録第 81843 號 公告第 17 年 第 1945 號) 考案者(實用新案提者)町田久吉

圖-13. 杭體(1)の外側に沿つて水又はモルタル噴射用導水管(4)を設け、導水管の下端を杭體(1)の下端に埋設し、上端を上向に突出せる短管(3)の上部に螺合させ、以て杭の打込み後導水管を回動させて短管(3)より離脱して引抜き得られるやうにしたもの。

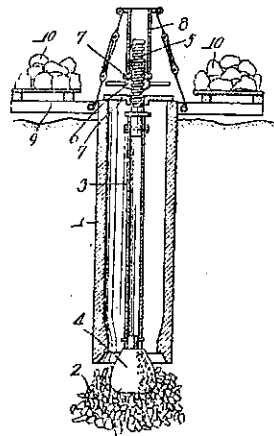
軟弱地層に於ける基礎杭埋設装置

(登録第 520160 號 公告第 17 年 第 2917 號) 考案者(實用新案提者)加藤素一

圖-14. 中空杭體(1)の上部に嵌載して之に荷重を載置すべき荷重載盤(9)に關聯させて受座(7)、螺杆(5)、荷重負荷筒(8)及回轉子(6)等から成るジャッキ装置を設け、螺杆(5)の下端に吊下筒杆(3)を連結したものの。

中空杭體(1)を地中に埋め、豫め吊下筒杆(3)の下端に吊下げたコンクリート製の槌頭(4)を以て、ジャッキ装置により槌頭(4)下に入れた栗石(2)を搗固め、吊

圖-14.



下筒杆の引上げ、栗石の補給、吊下筒杆の押下げにより所要の固さに詰終れば、吊下筒杆(3)から槌頭(4)を外して之を栗石上に残し、吊下筒杆を取去つて、中空杭體内にコンクリートを流込んで栗石(2)とコンクリート槌頭とを一體に凝固させ得るのである。